

## 01. 伏木橋跡

1911年(明治44年)に、吉久と伏木串岡間をつなぐ長さ140間(252m)、幅14尺(4.2m)の伏木橋が開通し多くの人に利用されるようになり、小矢部川沿いに工場や人家が建ち始め界限はとても賑やかでした。伏木側には米商が使用していた蔵が建ち並び、その中には下部はレンガの壁、上部は<sup>あかがまじ</sup>赤蒲土の土壁でできた、通称「赤蔵」と呼ばれる蔵がありました。その後、1942年(昭和17年)ごろに伏木橋が老朽化のため撤去され、串岡と吉久を結ぶ渡し船が運行するようになりました。1959年(昭和34年)になると、吉久の渡し船は中伏木に統合され、2009年(平成21年)に伏木万葉大橋が開通するまで運行していました。このように、伏木橋跡や渡し船の記憶からも、小矢部川河口をめぐる交通が周辺の人びとの生活にとって重要であったことが分かります。伏木橋の吉久側には、今でもレンガ造りの橋の土台を見ることができます。

--

伏木橋が無くなった後も、渡し船で対岸の伏木と繋がっていて、渡し船に乗って伏木側に行った思い出があります。

## 02. 旧国鉄吉久駅

1900年(明治33年)中越鉄道の高岡、伏木間が開通し能町駅が開業しました。1918年(大正7年)には能町駅から分岐して中越鉄道新湊線吉久駅ができ、高岡駅から新たに吉久駅、中伏木駅、新湊駅(六渡寺)を終点として汽車が走るようになりました。その後、1920年に中越鉄道は国営化されました。さらに、1951年(昭和26年)には高岡-新湊-富山まで富山地方鉄道が走るようになり、国鉄が貨物専用になったことで吉久駅は廃止されました。現在でも、貨物列車が走っています。

--

吉久駅から汽車に乗って家族で高岡の街中まで映画を見に行った子どものころの思い出があります。吉久の町から駅までの第一町通りには商店や飲食店が建ち並び、たくさんの人が行き来していました。

## 04. 御貸屋跡①

この辺りにはかつて御貸屋と呼ばれる、役人が在任中に藩から貸し与えられる官舎が建っていました。1655年(承応4年)に加賀藩直営の吉久御蔵が設置されてから、1661年(寛文元年)には詰米奉行や詰米方下才許などの役人も赴任しました。吉久には2ヶ所の御貸屋があり、ここはその御貸屋跡地の1つです。

## 05. 六渡寺神明社

旧六渡寺新村神明社、通称「あさのの宮」。いつ頃からあるかは不明ですが、1979年（昭和54年）に現在の社殿を新築しました。

--

かつてはホタルの飛ぶ田んぼが青い海原のような夏の風景や、赤とんぼが飛ぶ田んぼが金色に輝く秋の風景を目にすることができました。

## 06. 吉久2丁目公園（三角広場）

「三角広場」の愛称で親しまれている公園です。この場所がかつての加賀藩直営の吉久御蔵の敷地内であり、吉久御蔵が取り壊された1876年（明治8年）以降は麻畑や桑畑になっていました。1933年（昭和8年）には青年会館が建築され、獅子舞の練習や防火演習などに利用される現在の公民館の先駆けのような建物でした。また、隣接して消防屯所も建っていました。しかし、1950年（昭和25年）の台風被害により消防屯所と共に取り壊され、消防屯所は現在の万葉線の吉久駅付近に場所を移し、現在の公園になりました。

--

子どものころによく遊び、集合場所としても使っていた思い出があります。今でもよく子どもたちが遊んでいて、子どもたちの声を聴くと元気が出ます。夏祭りに浴衣を着て盆踊りをしたことを始めとするたくさんの思い出の詰まった場所です。

## 07. 加賀藩吉久御蔵跡

この辺りには、1655年（承応4年）に加賀藩直営の吉久御蔵が建てられ、吉久・伏木詰米奉行や、藩士の知行米を扱う蔵宿（町蔵）も存在し、吉久は高岡とともに重要な米の集散地として栄えました。加賀藩直営の吉久御蔵には、長さ30間、幅4間、6戸前の蔵が6棟建っており、砺波・射水両郡の御蔵の中ではとびぬけて大きいものでした。そのうち、5棟は柿葺き、1棟は板葺きの屋根でした。小矢部川や庄川の上流にあたる御蔵所から、川下げや馬下げによって吉久御蔵に集積された年貢米は御蔵詰米となり、伏木から積み出して大阪廻米や江戸廻米となりました。このように、吉久は米の集散地として重要な役割を果たしてきました。しかし、1873年（明治6年）に年貢米上納が改正されたことから吉久御蔵は廃止されました。その後しばらくは子どもたちの遊び場になっていましたが、建物が老朽化したことで1875年（明治8年）に、吉久御蔵は取り壊されました。その際に生じた御蔵の用材や木立は伏木と正本（中伏木）

小学校の新築時に再利用され、御蔵の跡地一帯は麻畑となりました。現在でも、御蔵をぐるりと囲んでいた御堀の一部が水路として残っており、敷地の痕跡を読み取ることができます。

## 08. 西照寺

西照寺は 1728 年 (享保 13 年) に、当時の氷見郡太田村大字西田村 (現在の高岡市西田) から吉久に招かれたお寺です。もともとは、現在の宮中新公園 (住民広場) の北側あたりにありましたが、1896 年 (明治 29 年) の大洪水で諸堂が倒壊流出したため、加賀藩直営の吉久御蔵が取り壊されて麻畑となっていた現在の位置に 1896 年 (明治 29 年) に建てられました。また、境内にある地藏宮 (米地藏) は、かつては吉久神明社内にはありましたが、数回の移転ののち、1962 年 (昭和 37 年) に吉久公民館が建立された際に西照寺に移されました。

--

かつて西照寺は子どもたちの遊び場になっており、映画などのイベントの思い出もあります。

## 09. 二上山ビュースポット

二上山の夕景が綺麗に見えるおすすめのビュースポットです。

## 10. 旧放生津往来

旧放生津往来は、松尾芭蕉が通ったとされる高岡の町と放生津 (新湊) を結ぶ道で、海に沿った浜街道でしたが、1900 年 (明治 33 年) から本格化した庄川河口の開削工事によって川の向こう側と分断されました。吉久に加賀藩直営の吉久御蔵が置かれたことで人が集まり、街道に沿って町並みができていきました。今も緩やかな折れ曲がりのある旧街道には、江戸時代後期から近代までの繊細な格子戸が特徴の切妻造平入の町家とともに地割もよく旧態を保持しています。現在でも、吉久住民にとって貴重な生活路であり、それぞれの思い出が残る場所です。

## 11. 折田家の蔵 (和平蔵)

いしろうぐら  
衣裳蔵と味噌蔵と戸前からなる、1894 年 (明治 27 年) に建造された蔵です。2006 年 (平成 18 年) に改修工事が行われ、現在はギャラリーやシアターとして活用しています。先祖である折田和平の名を取り、「和平蔵」と名付けられました。

## 12. 御貸屋跡②

この辺りにはかつて御貸屋と呼ばれる、役人が在任中に藩から貸し与えられる官舎が建っていました。1655年(明暦2年)に加賀藩直営の吉久御蔵が設置されてから、1661年(寛文元年)には詰米奉行や詰米方下才許などの役人も赴任しました。吉久には2ヶ所の御貸屋があり、ここはその御貸屋跡地の1つで、吉久御蔵が廃止された1873年(明治6年)には御貸屋に興仁小学校が設置されました。

## 14. 高岡吉久簡易郵便局

旧放生津往来の中で目印となる建物のひとつです。町並みの景観を意識した格子戸は夜になると温かい光に照らされます。ここでは吉久の観光情報を得ることができます。

--

普段から住民の拠り所となっており、朝市の時には人々の集まる楽しい場所のひとつです。

## 15. 番屋のおんぞはん

「おんぞはん」とはお地藏様を親しみを込めて呼ぶ愛称のことです。かつて加賀藩直営の吉久御蔵があった時代には番屋の前に鎮座していたためこの名で呼ばれています。その後、現在の場所で吉久のことを見守ってくれています。8月にはおんぞはん祭りと呼ばれる、吉久のお地藏様を一同に集め供養する祭りが子どもたちを中心に行われています。

## 16. 智徳寺

西照寺と共にある吉久の寺で、西照寺の門弟であった知成が建立したお寺です。かつては末広町にありましたが、現在の場所に1900年代に移転しました。今でも「ちじょうはん」と呼ばれ、住民に親しまれています。

## 17. 能松家住宅主屋

明治末期ごろに建築されたと推定される、吉久の町並みのほぼ中央部に位置する町家で、元米商を営んでいました。玄関奥の吹き抜けはオイと呼ばれ、この地方独特の拭き漆塗りの梁組を

見せています。吉久の町家の好例であり、保存状況も良いです。1997年(平成9年)に国の登録有形文化財に登録されました。

## 18. 農庵 (みのりあん)

大正初期に建築されたと推定される、農業を営んでいたころの特徴を残した町家です。玄関の上部にはアマと呼ばれる主に稲藁や比較的軽量の生活用具を収納する空間がありました。重要伝統的建造物群保存地区への選定後、最初に修理工事された建物で、かつての大戸(表口などにある普通より幅広な戸)を復元したことで歴史ある町並みに深みが加わりました。

## 19. 吉久神明社

旧吉久新村神明社。鎮座年代は不明ですが、拝殿の破風に1833年(天保4年)の墨書きが残ります。かつて1956年(昭和31年)に、天満宮(通称、新開の宮)と宮中新神明社(通称、小宮)が合祀され、現在の吉久神明社になりました。

--  
厳かな雰囲気のお正月や、屋台が出て賑わうお祭り、秋になると色づくイチョウと銀杏拾いなど季節を感じることでできる場所です。かくれんぼや宝探しなど、昔も今も子どもたちの遊び場になっています。

## 20. 吉久神明社の石造狛犬

吉久神明社の石造狛犬は阿像(総高22.8cm)と吽像(総高18.2cm)の2体で、いずれも淡緑色凝灰岩の越前笏谷石えちぜんしゃくだにいし製です。石造狛犬は中世-近世初頭の越中における越前笏谷石文化の広がりを知る上で貴重なものです。阿像には1555年(天文24年)の建立を示す刻銘「天文廿四」があり、銘がある狛犬では県内最古とされています。2020年(令和2年)に高岡市指定文化財に指定されました。通常は非公開であり、吉久神明社の拝殿に鎮座しています。

## 21. 水準点

1900年(明治33年)から本格化した庄川河口の開削工事の際に設置された、吉久神明社の石灯籠の足元にある水準点です。吉久の住民でも気づいていない人も多い穴場です。

## 23. 有藤家住宅主屋

1916年(大正5年)ごろに建築された石灰俵編みと農業を生業としていた商家でした。間口6間半と広く、内部は2列3室の居室部になります。玄関奥のオイは独特の梁組を見せる構成になります。年代は新しいものの、基準的な外観意匠の町家で、1998年(平成10年)に国の登録有形文化財に登録されました。

## 24. さまのご屋

1881年(明治14年)に建築された町家で、20年程空き家だった町家を改修し、2008年(平成20年)から喫茶・ギャラリー・陶工房として活用しています。米の収穫時に、部屋の畳と敷居を取り外して玄関続きの土間に出来る秋納屋が残っています。ここでは吉久の観光情報を得ることができます。

--

美味しい食事と楽しい会話のできる、ほっとできる居場所です。

## 25. 丸谷家住宅主屋 (旧津野家住宅主屋)

明治中期に建築された旧放生津往来に面する町家で、木造平屋一部2階建、切妻造棧瓦葺です。正面外観は繊細な格子と簷子下見板張で構成し、内部はゲンカンの奥に天井を吹抜けとするオイを配し、南側の増築部を座敷としています。2012年(平成24年)に国の登録有形文化財に登録されました。

## 26. 吉久の伝統的町並み (重要伝統的建造物群保存地区)

2020年(令和2年)、吉久は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。吉久は、江戸時代に吉久御蔵を中核として形成された在郷町で、御蔵が失われた近代以降も栄えました。放生津往来沿いに、江戸時代後期までに形成された地割がそのままの形で残され、折れ曲がりのある特有の町並みを形成しています。それとともに、江戸時代後期から近代に建てられた繊細な格子戸が特徴の切妻造平入の町家が残り、高岡の小矢部川河口部に栄えた在郷町の歴史的風致を良く伝えています。

--

毎月朝市が催され、秋になると「さまのこアート in よっさ」というイベントや迫力のある獅子舞の舞台にもなり、様々な風景を目にすることができる吉久のメインストリートです。

## 27. 南無妙法蓮華経の石碑

この石碑には「文久三年」(1863年)と刻まれています。明治維新の少し前、稲束20束を盗んで処刑された旧家の者を供養するために、日蓮宗の法華宗の人たちが建てた石碑です。その者は、この場所で読経をあげて知人縁者と別れを告げたとされています。また、この近辺は何度か火事が起きていますが、どういう訳かこの場所で火事は止まっています。

--

もしかすると、この石碑には特別な力があるのかもしれない。

## 28. TEK リサイクルセンターのしだれ桜

春に咲くしだれ桜がきれいで、夜になるとライトアップされるため夜桜も素敵です。

## 30. 牧野用水

子どもころにザリガニ釣りや水遊びをした思い出のある場所です。

## 32. 日の出町神明宮 (あんころの宮)

旧吉久村神明社、通称「あんころの宮」。いつ頃からあるかは不明ですが、文政年間から存在していたとする記録もあるといわれています。1950年(昭和25年)時の台風被害により倒壊しましたが、当時の射水郡本江村(現在の射水市本江)から社殿を譲り受け、翌年1951年に再建されました。

--

野球や相撲、银杏拾いなどの子どもころに遊んだことや、音楽会やBBQなどの子どもイベントの思い出の詰まった場所です。お祭りのときには屋台が出て賑わいを感じられます。

### 33. 小杉往来

1900 年 (明治 33 年) から本格化した庄川河口の開削工事までは吉久からあんころの宮の脇を抜けて小杉へと至る道でした。

### 34. 立山ビュースポット

立山から登る朝日や花火も見ることができ、晴れた日には立山のパノラマを楽しむことができる住民の散歩道です。春には堤防と桜並木が並んで続く特有の風景を見ることができます。

### 35. 吉久公民館／駐車場

現在の公民館は 1985 年 (昭和 60 年) に建設されました。現在の公民館横のスペースは、吉久への来訪者の駐車場としても利用することができます。今日の公民館の先駆けにあたる建物は、まず 1933 年 (昭和 8 年) に吉久青年会館を現在の三角広場の場所に建設しました。吉久青年会館は、1950 年 (昭和 60 年) 9 月の台風の被害により撤去されるまで利用されました。その後、青年会館の代わりに智徳寺を公民館のように利用させてもらっていましたが、公民館建設の機運が高まり、1962 年 (昭和 37 年) に現在の吉久神明社境内に木造 2 階建ての公民館が建設されました。公民館は、吉久の文化活動を支える吉久の人びとに馴染みある場所です。特に、吉久を代表する獅子舞にとって、青年会館時代から練習の場として欠かせない場です。10 月第 3 週の祭り約 1 ヶ月前から、夜には笛と太鼓の音が響き、祭りへの期待を高めていきます。

--

野球や相撲、银杏拾いなどの子どものころに遊んだことや、音楽会や BBQ などの子どもイベントの思い出が詰まった場所です。お祭りのときには屋台が出て賑わいを感じられます。

### 36. 宮中新公園 (住民広場)

通称「住民広場」の愛称で親しまれている公園です。

--

住民運動会や、屋台や盆踊りなどで賑わう夏祭り、子どもの頃によく遊んだ思い出など、住民のたくさん思い出が詰まった場所です。



## 37. 吉久ひなどり保育園

子ども通っていた、行事や職場体験などの思い出がある場所です。

## 38. さくら台の桜並木

春に咲く桜がきれいで、夏には木漏れ日の落ちる木陰が涼しく、車通りが少ないのでゆったり散歩することができます。